

第12号



川越初雁会



川越初雁会第七回総会開催される



総会で挨拶をする岩堀会長

平成二十九年九月三日、くすのき祭と同日、川越氷川会館で、第七回川越初雁会総会が開催されました。会長挨拶の後、平成二十八年年度の事業報告書並びに決算書の承認、平成二十九年度の事業計画案と予算案が承認されました。

ひき続き元シリア大使の鏡武氏による記念講演が行われました。要約は以下に記載します。

中東 なぜ紛争が絶えないのか？

講師 鏡 武氏 (高十四回) 元シリア大使



鏡 武講師

日は中東の紛争の複雑さについて、お話しします。

中東の特徴

世界地図を広げてみますと、中東とはアラビア半島を中心としたエリアであり、西はアフリカの地中海沿岸諸国から、東はイラン(ペルシャ)までの地域です。アラブ連盟には二十二カ国が所属し、中東全体で二十六カ国あります。(ちなみにEUも二十六カ国) 第一に最も顕著な特徴はその歴史の古さです。世界四大文明のうちの二つがこのエリアで発生しており(メソポタミア文明、エジプト文明)、古い遺跡があちこちに存在しております。俗に「中東の三P」と呼ばれるヨルダンのペトラ、シリアのパリミラ、イランのペルセポリスが代表的なものです。その後の七世紀以降に興隆したイスラム文化は、ヨーロッパの文化の起源であるギリシア哲学、数学とイタリアで接触、後のルネッサンスへと進展しました。今とは違い、当時はイスラムは世界の文化の中心地であったと言えます。

二つめの特徴として、豊富な石油資源があげられます。世界の石油生産の約三割を占め、埋蔵量にいたっては約五割と言われております。なぜこの地域に石油が多いのか？一説ではアラブ地域の地下深くはアラビアプレートという岩盤で覆われており、この地下の構造が石油をため込むのに適しているとのこと。

現在の中東調査会の副会長として、中東と縁が続いております。現在は中東調査会の副会長として、中東と縁が続いております。本

川越初雁会の皆様、初めまして。鏡武です。私は川越第一小学校、川越第一中学校、川越高校卒と保守本流の道を行ってまいりました(笑)。私のささやかな誇りです。

外務省入省後は川越と縁が遠くなってしまいました。海外の赴任先は計八カ所に及び、人生の半分海外生活を送ることとなりました。最初に赴任したのはクエート日本大使館、最後はシリアでした。

現在は中東調査会の副会長として、中東と縁が続いております。本



講演中の鏡講師

るとのことです。

三つめの特徴として、常に政情不安定な地域ということですが。現在進行形で継続的に紛争が発生している地域といえます。

様々な形態の紛争

まず第一に最近の情勢変化によって、生じた紛争をお話します。通称「アラブの春」と言われている政変で引き起こされた国内混戦が中東各地で見られます。二〇一一年十二月、チュニジアのチュニス街角で警察官とのトラブルが携帯

の SNS で拡散し暴動に発展、独裁者の追放にまでいったのが最初です。その後エジプト、リビア、イエメン、シリアに波及しました。

余談ですが、私はシリア 日本大使の時、現在のアサド大統領にお会いし、一時間ほど会談したことがあります。対外的には非常に評判の悪い独裁者ですが、柔和な人の良い方でした。別々の時には門まで送ってくれたほどの人です。

一般的には独裁者の周りにいる利権がらみの取り巻きが悪いケースが多い。政権崩壊した後、民主化がうまくいかずに国内は混乱したままの状態が今でも続いておりまます。

次にイスラム過激派によるテロがあげられます。最初は自らのエリアの中で宗教的信条を広めるために行っていたのですが、他国へのテロを通じて自らを宣

伝するようになりました。九・一一、ロンドン同時多発、パリやニースの事件など、欧米の方へ戦闘の矛先をむけるようになりました。

その結果、どのような現象がおこっているかと言いますと、難民の増加です。また、国内での難民も多く存在します。

なぜ紛争が多いのか

歴史が古いため、中東にはしがらみが多く存在し、それが複雑に絡み合っています。それ故紛争が多発するわけですが、中東に存在する三つの対立軸をお話します。

第一の対立軸は宗教です。この地域にはイスラム教、ユダヤ教、キリスト教がそれぞれ三すくみで対立しています。イスラム教が大多数を占めますが、キリスト教徒も少々存在しております。イスラムとキリスト教徒は十字軍以来の対立

関係にありますし、ユダヤとキリスト教もナチスによる殺戮以前から反目の関係にあります。またイスラム教もスンニ派とシーア派に二分されており、これも対立関係にあります。

第二は民族の違いからくる対立です。この地域にはアラブ、ユダヤ、ペルシャ、トルコ、クルドとたくさん民族が存在しております。特にクルド民族は国家をもたない世界最大の民族であり、その独立をめぐって多くの国の利益が交錯し、大きな不安定要因となっております。

第三は統治形態の違いによるものです。中東の国々はこれがばらばらであり、三つの形態に分けられます。

一つめは絶対君主制での統治国で、これはアラブの産油国が相当します。王族で統治され一般の民衆は為政者を選べないという国

情です。二つめは立憲君主制を引く国です。憲法があり、議会も存在しており、国王の権力に制限があるというものです。

三つ目は共和制の統治であり、選挙を通して大統領が選ばれ、民主的な政治を行う国です。イランは一九七九年に絶対権力を保持していたパーレビ国王を追放して民主化を成し遂げました。イランは革命の輸出をアラブ産油国に企てており、これも関係悪化の要因となっております。

また、中東域外からの介入を起因とする紛争があります。主に米欧とロシアからの介入ですが、石油の利権をめぐる経済的要因、イスラム教の人道に関する相違からくる介入、テロを輸出する集団に対して治安上の介入があげられ、問題が複雑に絡み合っています。

(事務局)

山岳部創部の頃

金子 勇二 (高三回)

ある山岳部員の想い出 第一回

終戦の年に入学、激動の時を過ごされた体験と、山岳部員としての想い出を書き綴って頂いた。数回に分け連載します。



金子勇二氏

川中から川高への頃

私が川中に入學したときは、太平洋戦争敗戦の年、昭和二十年四月八日である。

「神国日本は正義の最中にあり、あらゆる物不足の中で必死に頑張る意気に燃える健気な十三歳の少年」であった。

それが数ヶ月後には、見るも聞くも一変した年であった。入学式だけは立派な建物の講堂、入学生二百名、迎えるは上級生約二百名(勤労動員で隔週授業組で二、三年生の一部)教師

は学校長以下、約半数の先生方であった。他は引率教師と共に、二、三、四年生の先輩は朝霞、上福岡、高萩飛行場に勤労動員で不在であった。

一年生の授業内容等

一 教科の授業(音楽無し) 体育は武道(剣道の型を中心)

二 軍事教練(週三から四時間)。配属将校(金久保中尉、吉沢下士官による木銃による突撃訓練、模擬射撃歩行訓練、特に歩兵操典

による姿勢歩行訓練は、「不動ノ姿勢ハ教練基本ノ姿勢ナリ故ニ内ニ精神充実シ外厳肅端正ナルヘシ」毎時間これを斉唱し開始されたが、厳しかった事の凄さは、記憶に焼き付いている。

三 防空壕と空襲時の退避。自分の穴は自分で掘れ

とのことで、一年生の壕は、現在の道灌饅頭とテニスコートと、飯田亮先生の胸像後にあった川越城の空堀の底側に面して掘った。

各クラス四本完成。中は真ッ暗何も無し、空襲警報サイレンで授業は中断、数回飛び込んだ記憶がある。

ある日階段教室でのパスカルの原理の実験中に警報が鳴り、壕へ移って「一端の単位面にかかった圧力は他の全ての面に云々」私は壕の中でも那須先生の物象(物理)の時間は大好きで、喜んで聴いたのである。

終戦の事

八月一五五正午、私の家に置くラジオに近所の人が集まった。「天祐ヲ保有シ万

世一系ノ高祖ヲ踐メル大日本帝国ハ忠良ナル汝臣民ニ告グ」斯くして戦争に負け大戦は終わった。

何も判らないまま、学

校に行ってみた。駐屯していた通信隊の兵士が右往左往しているのを見て何も判

らないで私達数人の一年坊主が困っていたとき、授業に厳しかった横田先生に出

会った。恐る恐る近づくと「兎に角連絡のあるまで自宅で待て、九月一日には必ず登校すること」と言われて皆家に帰った。

東上線も西武線も動いていた。弁当だけ持って登校、東上線は一時間から二時間毎に運行し定期券はそのまま使えた。

「全面降伏したとはどういふことなのか」と電車の中でぼそぼそと元気の無い登校であったが、川越市駅の車掌さんは改札口で鉄みをパチパチしながら通してくれた。敗戦後初めての二期であった。

驚くべき事は十月下旬頃になると、大体正確に運行することが多くなったことである。

校内では九月中旬以降だっただろうか、勤労動員の上級生は皆復帰して、それぞれもとの学年学級に帰属した。

気がつくと、吾々一年坊主がほっとしたことがある。街や放課後で先生に会えば、

停止挙手敬礼、上級生には先に挙手敬礼をしたのだが、それが頭を下げて済むことになったのである。これで慌てて怒鳴られることは無くなったものの、不安にもなった。

しかし相変わらず全体として、校内での先輩にはビクビク物であったが、それについては一年生は「俺たちは敬礼しっぱなし、してもらうこと無くて終わりで。」と残念がった。

十月頃、軍関係(陸士、海兵機関学校、通信学校、少年飛行兵甲種予科練等)に志願進学していたほぼ全員の、勇猛優秀な先輩達が復学した。(次回に続く)

剣道部の歴史二

松村 定明 (高二十回)



昭和40年度 豊島先生と柴生田先生の学生時代

結果でなくて、心を育てるのが狙いだった。教育現場にあって思う事は、感動を共感する『師弟同行』が大事。自分の実践はその事を大切にしてきた。」と述懐している。昭和四十三年埼玉県春期学徒大会で優勝。全国大会に出場した。

昭和四十年の埼玉県春期学徒大会でも優勝、見事二連覇を果たしている。

昭和三十九年に行われた「百日寒稽古」に続いて昭和四十年秋から「千本稽古」昭和四十二年秋から「初雁稽古」と名付けて寒稽古を行っている。

昭和四十五年豊島先生の退職で、教え子の柴生田建司先生(高十八回)が顧問を受け継いだ。先生は豊島先生に憧れ、東京教育大学に進学し教職に就かれ本校に着任した。

昭和五十九年春から、柴

生田先生転任の後、今栄亮一先生(高二十七回)が後任となり、平成五年まで指導された。今栄先生退任の後、森田智裕先生(高三十四回)が引き継ぐ。今栄先生、森田先生共に、柴生田先生の教え子である。

平成十四年から、五十嵐先生が顧問となり、その後新井敏彦先生(高四十四回)が顧問を引き継がれ、その後山本先生(高五十五回)が顧問となった。先生は在学中、一、二年生の時は森田先生に、三年時は五十嵐先生の教えを受けた。

昭和五十九年以降の県内



昨年12月の稽古会

での主な戦績を記すと

昭和五十九年関東大会予選五位、昭和六十四年新人戦個人三位、平成五年個人三位、平成七年新人戦個人三位、平成八年新人戦団体、個人共に三位、平成九年全国大会予選団体三位、平成十年全国大会予選ベスト8。

また、平成五年には水野仁(高六回)が会長となりOB会が発足した。更に平成七年には保護者を中心とした後援会も発足し、支援体制を整えた。

先日、毎月行われていた、OBを招待して行われる稽古会を見学に行ってきた。OB十五名と現役の生徒、更に第一中学校の剣道部員も参加して、総勢五十名ほどの稽古会が開催されていた。三十年ぶりに訪れた剣道場の凛とした気配に圧倒されながら、懐かしさと、OBと若者が年齢を超えて、共に戦える剣道の素晴らしさを感じた。

現在の剣道部

現顧問(高五十五回)



山本 隆弘先生

山本先生は平成二十七年剣道部顧問に就任された。川越高校を卒業の後、中央大学から筑波大学大学院に進み、狭山の特別支援学校に勤務の後、念願の母校の教員とられた。

現在、剣道部員は二年生五名、一年生二名で稽古は放課後の四時から二時間半行っている。昨年度は、県予選において、三年生の高橋選手が、三十五年ぶりに優勝し、関東大会に出場した。また、九州で行われた玉竜旗剣道大会にも出場し、二年生の堀内選手が五人抜きで敢闘賞を頂いた。今後の目標は全国大会に出場する事である。

雁の記

川越散策日記
荒牧澄多

川越駅東口モニユメント

(高二十七回)

「時世」



時世の音楽のイメージスケッチ (川越市発行の再開発事業誌より)

川越駅東口駅前、三角
形が組み合わされた巨大な
オブジェがあります。「時世
(ときよ)」といいます。川
越駅東口第一種市街地再開
発事業にあわせ、「時代の流
れの中で時を刻むモニユメ
ント」として造られました。
実はこれ、地下駐車場の
排気塔の化粧です。このヒ
ントは、横浜駅西口にある
「風の塔」(昭和六一年)で、
ヤオコー美術館を手がけら
れた建築家伊東豊雄氏の設
計です。

デザインの決定にあたつ
ては、指名アイディアコン
ペとしました。規模が規模
だけでなく、デザイン性だけ
ではなく、施工能力もある
八社からヒアリングを行い、
最終的には、分野の異なる
四社から二作品ずつ提出し
ていただきました。その四

社とは、ステンレス造形が
得意な会社、屋外造形美術
の会社、タイル製造の会社、
照明器具の会社です。これ
らのうちの何社かはもうあ
りません。

市内部の選考委員会での
検討の結果選ばれたのが、
(株)ヤマギワ(旧ヤマギワ)
の作品です。

「昔からすでに存在して
いたようなもの、そして、
数百年後に発掘されようと
も新しいもの」をメインコ
ンセプトに、伝統的町並み
のシンボルである「時の鐘」
を意識し、時を告げる光、
自然光や人工の光を用いて
時の流れを表現し、未来へ
の継承を意図しています。
デザインは(株)LDヤマ
ギワ研究所(当時)藤田久
一氏です。このコンセプト
を補強するものとして音も



時世

取り入れられました。今尾泰三
氏作曲による「BIGGIN
NIGS62909」です。
では、モニユメントを見
てみましょう。

連続した三角形が壁面を
構成しています。この模様
見たことがありますよね。
そうです。鱗(うろこ)模様
です。また、西洋では波を

表しているようです。川越
と言えば、新河岸川、入間
川、小畦川、荒川などの河
川に囲まれています。波と
は切っても切れません。さ
らに、中世に川越を治めて
いた北条氏の家紋はミツウ
ロコです。

上向きに取り付けられた
ステンレスの鏡面パネルは、
日々刻々と変化する天空を
映し出します。そこには自
然との同化がテーマです。
昼は、太陽や雲の動きを映
し、夜は月や星を映します。
実際に映るのは、ネオンサ
インでしょうか。

下向きの黒いグレージン

グパネルは、ボリュウム感
ある静かな存在です。しか
し、時間が来ると一転して
主役に躍り出ます。内照式
照明やネオンライトによつ
て表情を変えます。

定時には、光と音によつ
て様々な表情をつくり時を
告げてきました。

エッジに沿ったネオン、
グレージングパネルの照明、
そして頂部には、サーチラ
イトが設置されています。
このサーチライト、午後六
時になると北に向かって照
射します。そこには「時の
鐘」、長い間時を刻み続け
きたこの川越のシンボルに
敬意を表します。他の時刻
にはゆっくりと動きます。
そして、深夜零時には、天
頂に向けて照射し、一日の
終わりを告げます。

このモニユメントは、北
米照明学会のポールウォー
ターベリー優秀賞を受賞し
ています。しかし今は御存
じの通り……

秋の散策会

原 宗康 (高四十一回)

日本橋界隈散策

十月二十一日、台風の影響から生憎の雨模様でしたが、参加者十八名にて江戸情緒の残る日本橋を散策してまいりました。

まず、日本銀行金融研究所貨幣博物館を訪れました。和同開珎から始まる「お金の歴史から当時の社会が窺え、大変興味深く、大人が見ても十分見応えのある内容でした。



日本銀行金融研究所貨幣博物館にて

十月二十一日、台風の影響から生憎の雨模様でしたが、参加者十八名にて江戸情緒の残る日本橋を散策してまいりました。大獄に連座した吉田松陰が刑死した場所でもあり、松陰が残した辞世の句を刻んだ碑には、「身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも 留め置かまし大和魂」とあります。処刑の合図にもなったという「石町時の鐘」も公園内に残されており、日本橋の違った側面を見ることができました。

さらに室町へ移動し昼食を頂き、雨で冷えた体をお酒で温めながら参加者同士の懇親を深めることができました。昼食後はそこから程近い日本橋北詰に移動し、「日本橋魚市場発祥地碑」を見学、この辺り江戸から大正の時代まで三百年ほどにぎわった魚市場があったという、まさに「日本橋」の上にて解散となりました。

第五回紫縁展

川高OB展 実行委員長 皓夫 (高十四回)

大護 皓夫 (高十四回)



紫縁展会場川越市立美術館にて

顧問の大沢寛先生の遺作、現顧問の田上司朗先生の作品、大沢先生時代のOBが三十人、合計八十九点でした。会期中の入場者数は八百余人で、美術部以外のOBの姿も多く散見されました。搬入・飾りつけ直後に、記念の集合写真撮影とギャラリートークがもたれ、高校生とOBの交流が図られました。

また、今回も会場風景や交流の様様を記念図録にして、出品者全員と同窓会本部にお届けしますのでご覧ください。

第十二回ゴルフコンペ

於 川越カントリークラブ 優勝者 仲村一夫 (高十六回)

楽しいゴルフを、ご一緒させて頂き有難う御座います。十月五日、初雁会ゴルフ会に参加以来五年近くになりましたが、初めて優勝する事が出来ました。ここ数年体調を崩し、ゴ

読書サロンのご案内

ルフにも熱が入らない数年を過ごしてきましたが、今回は、多く打ったホール(OBでWパー等々)が全てハインドホールに当たり、この様な結果になり、大変うれしく思っています。と同時に、この様な事も有るのだと改めてゴルフの楽しさを感じた処です。これから、出来る限り参加させて頂きます。

圓山壽和 (高十七回)さんを中心に、藤沢周平の読書会を企画しました。朗読を通して、藤沢周平が江戸時代を舞台に描き出す人生の縮図と機微をゆつたりと語り合える場になりたいと思います。興味のある方は事務局にご連絡ください。

発行人

会長 岩堀 弘明
事務局 川越市六軒町一三十三番地
題字 吉沢翠亭義和
印刷 (株)櫻井印刷所